

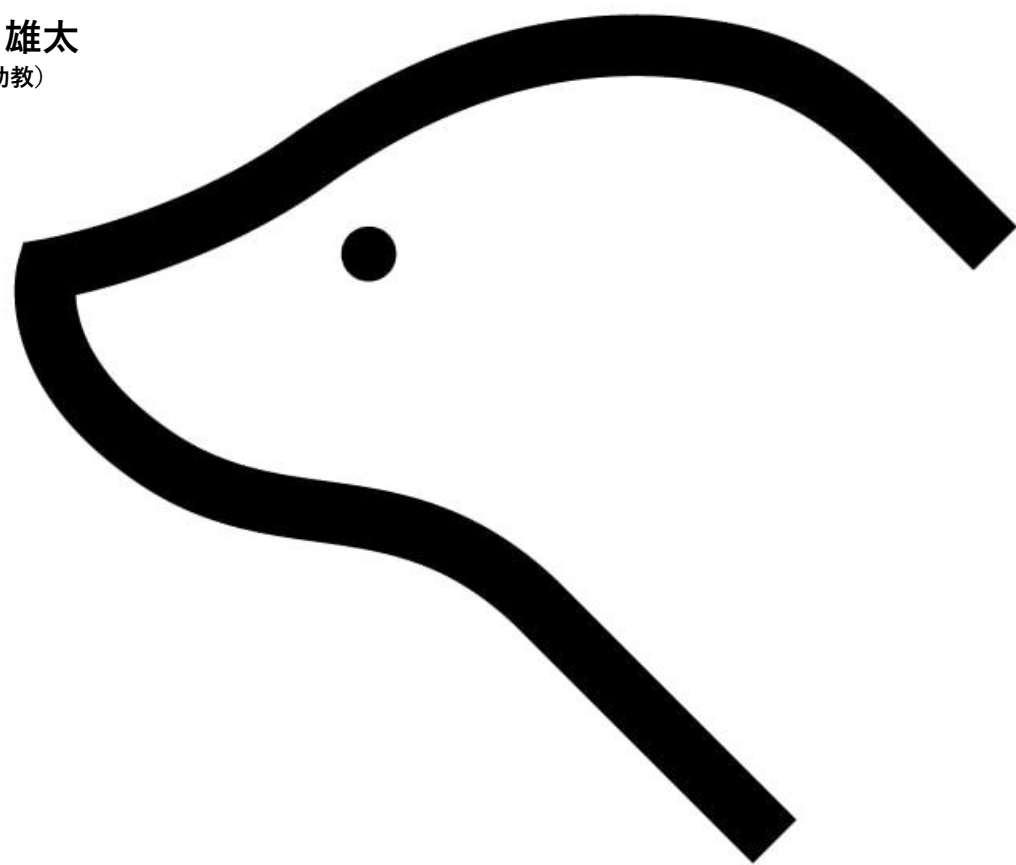
WILDLIFE REPORT

2025_6_25

060



櫻木 雄太
(特定助教)



発行：京都大学野生動物研究センター www.wrc.kyoto-u.ac.jp

TOPIC

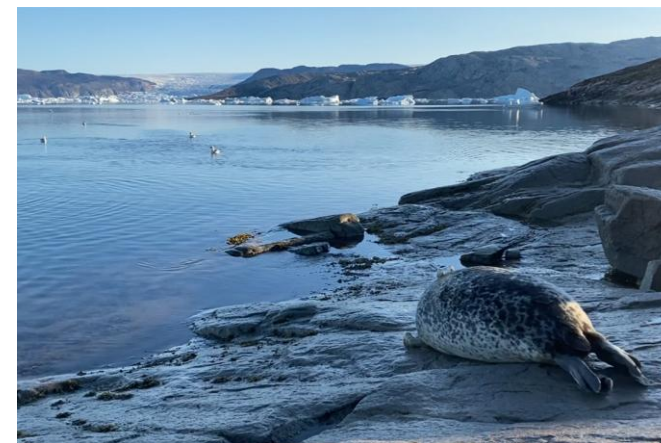
カービング氷河とワモンアザラシの関係を探る

北極域の海洋生態系において、ワモンアザラシはホッキョクダラなどの捕食者である一方で、ホッキョクグマの餌生物でもあります。また、先住民族には食料や衣類など重要な資源として利用されています。このように多面的な側面を持つワモンアザラシは、人間も含めた北極生態系において重要な種といえます。しかし、近年の気候変動に伴う急速な環境変化は、その生態に強く影響すると懸念されています。そこで私は、グリーンランド北西部にあるカナック村を拠点に、北極域研究強化プロジェクト（ArCS-3）と連携して、ワモンアザラシの生態や生息環境に関する研究を行っています。特に「カービング氷河」と呼ばれる、末端が海に流れ込んで冰山を生み出す氷河の周辺にアザラシが集まることに着目しています。なぜワモンアザラシがカービング氷河周辺に集まるのか、衛星発信器による行動追跡や食性調査、環境DNA分析などを通じて、ワモンアザラシの生態とカービング氷河が生み出す環境の関係性を明らかにしたいと考えています。

現在、WRCの海獣班（海棲哺乳類を主に研究する三谷教授の研究グループ）では「海棲哺乳類とヒトが共に暮らす未来」を目指し、クラウドファンディングに再挑戦しています。本研究もその一環として進められます。皆様の温かいご支援をどうかよろしくお願いいたします！



クラウドファンディングのWebページのQRコード。



衛星発信器を装着したワモンアザラシ。奥にはカービング氷河や冰山が見える。

わたしのひとりごと

現地でカービング氷河の末端にボートで近づくと、徐々に空気は冷たくなり、氷河や冰山が崩れる音が響き渡ります。なんて場所に来てしまったんだと思いますが、ふと海面に目をやると、そこにはぶかぶかと浮かぶアザラシがいました。巨大な氷河と小さなアザラシ、その対比がとても印象的な光景の一つでした。



カービング氷河とアザラシ。写真中央の黒い点がタテゴトアザラシの頭です。

NEWS



野生動物研究の促進・若手研究者育成のため、皆様のご援助を宜しくお願い致します。

WRC寄付

